

# たまたれ

通巻 第16号



川渡祭 茅の輪

水無月の夏越の祓する人は千歳の命のぶというなり

# ご挨拶



高良宮 大司  
間 竹 宗 廉

よる世情の不安定、テロ・暴力の跋扈、自然環境の急激な変化、天変地異、台風・旱魃・地球温暖化・地震多発の恐れ、科学技術の発達は目を見張る勢いで進み、宇宙往還・交信・研究・作業、電子本の普及、いまやグローバル化の社会的風潮の中で、國のあり方、民族の独自性が問われています。

このような時代であるからこそ、古くから伝えられた伝統文化を見直し、新しい社会づくりの息吹としていかねばなりません。

天照大御神様をお祀りする伊勢の神宮は、来る平成二十五年秋、第六十二回式年遷宮を迎えます。昨年十一月、新しい宇治橋の渡り初めがありました。赤誠を尽くすごめがありません。崇敬各位のお蔭を以ちまして、高良大社でもご遷宮奉賛の目標を達成することができました。

ご皇室では、平成十三年愛子内親王殿下・平成六年佳子内親王殿下・平成十八年悠仁親王殿下がご誕生遊ばされました。昨平成二十一年は天皇陛下御即位二十年・天皇后兩陛下ご成婚五十年のご慶事の年にあり、全国各地で奉祝行事が開催され、国民挙つて慶賀の極みに存じます。

産子・ご崇敬の皆様には、長期にわたる休刊を心からお詫び申し上げます。

産子・ご崇敬の皆様には、長期にわたる休刊を心からお詫び申し上げます。

顧みますと、「たまたれ」休刊中のこの十年間、社会は大きく変化しております。

日本の道徳の欠如、教育の荒廃、家庭の崩壊が心ならずも進み、経済の好不況の波は容赦なく日々の生活を襲い、本義を忘れた政治に

は固より、奉齋会・平成のご造営奉賛会・崇敬会をはじめ多くの奉賛

団体が組織され、それぞれの活動を通じて常に篤き真心をお寄せ下さるご崇敬各位に支えられていましたことに、心より感謝申し上げる次第でございます。

また、ここ久留米では、平成二十三年春九州新幹線鹿児島ルートが全線開通し、平成二十四年春には、高良山の麓の御井町の、県道バイパスが開通する運びとなっています。

産子・ご崇敬の方々、学舎に学ぶ若者たちは留学生を含め、この神坐す山に登り歴史・文化を肌で感じ、また、ふるさとを常に忘れぬ各地の同郷の人々は、地方の疲弊といわれ活気を失いつつあるわが郷土を案じては、心を鉢花に託して元気を贈り続けて下さいます。

経済界・行政関係諸機関も、「ほとめき（おもてなし）久留米」を合言葉に、諸活動を拡げています。

筑後地域の心の拠り所である高良山・高良大社の悠久の歴史と文化伝統を護り伝え、新たな歴史を刻み行き、御神威のもと、祭祀の厳修を第一に、皆様の深きお心を体し、今このただよえる世情をつくりかためなすべく、日々奉仕に勤めたまどります。

今後とも何卒宜しく御願い申し上げますとともに、社報「たまたれ」復刊にあたってのご挨拶を申し上げます。

高良大社	代表役員	宮	竹間	宗磨
責任役員	前川	責任役員	飯籠	実
責任役員	川村	責任役員	赤司	廉二
責任役員	大石	責任役員	昌生	義明
責任役員	緒方	責任役員	渡辺	良人
責任役員	永渕	監査役	黒岩	義範
責任役員	俊毅	監査役	延峰	也
顧問	彌永	監査役	徹也	
相談役	喜多村	監査役	光弘	
相談役	禎勇	監査役	昌実	
平田	幸治	監査役		

# 川渡祭について

かわたりさい

当社の「川渡祭」は、六月一日・二日の両日行われます。「かわたり」の名前から、時季になると「川を渡るのですか?」との質問も多く、厄年の年齢の問い合わせをよく戴くこの祭りは、さてどのような祭りなのでしょうか。

川渡祭は巷間では、「かわびたり」「かびたり」「かーびたり」とも呼ばれ本來は十二月朔日の神事です。

川に浸つて禊をする又水難除けに川へ餅を供えて祈る風習等があります。それが半年早く行われるのは謎ですが、十二月の神事と六月の神事の互換は信仰的にも民俗

学的にも珍しいことではなく、半年前或いは後に同じ神事をお仕えすることがあります。

更に当社では水難除けのみに留まらず、広く「災難厄除にお陰がある」との信仰に変じています。

高良大社の川渡祭には、境内に茅の輪が設けられます。茅の輪くぐりは、本来六月晦日十二月大晦日に、罪穢れを祓い身を清める大祓式にて行うのが普通ですが、戦時中、旧暦の六月朔日の川渡祭の日が新暦では六月二十五日にあたり、五日後の大祓式に準備した茅の輪を、兵隊さんや家族が武運長久を一心に祈つてくぐったことが、現在の川渡祭と茅の輪の関係の始まりと言われています。

また今では「川渡祭」を「へこかき祭り」とも称します。これは厄除けの赤い「へこ(禪)」を「かく(着ける)」からきており、裸詣りの男衆又数

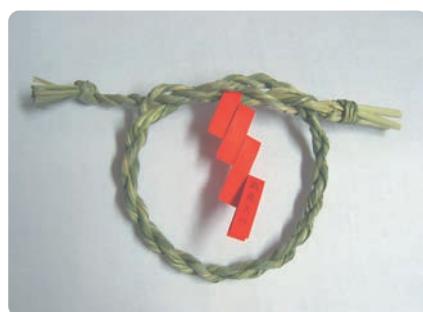
年の祓い又還暦等の年祝、或いは家内安全無事息災の御祈祷を受け方がある、引きも切らず来山し、社頭は鈴の音で清められ、各々茅の輪守を受け家路に着きます。

明けて二日祭と続き、六月中は厄除祈願のお参りが続くのです。

(権禰宜 松本 長人)



朝妻の清水での禊



茅の輪守

厄祓特別祈願 川渡祭  
「へこかき祭り」で  
筑後の夏祭りがはじまる!



六月一日・二日  
筑後の夏祭り  
高良大社  
kourasan.com

# 祭事のご案内【六月～十月】

## 川渡祭（へこがま祭）

六月一日・二日

前ページご参照下さい

## 夏越大祓式 六月三十日

日々生活している中で、知らず

知らず犯した過ちや罪穢れを、紙で作った人形に移し、心身を祓い清める神事です。暑い夏を無病息災に過ごせるようとの祈りも込めます。

## 奉納書道展

七月十九日～



## 剣道大会 九月二十三日

久留米市内各地、多数の小中高



## 献灯祭 八月一日

社殿前の百三十一段の石段（本坂）  
両脇の灯笼に明りをともす点灯式。  
御神慮を和め献灯奉納者の安全や  
事業繁栄を祈念します。



弓道大会 九月二十六日  
「小笠原弓馬術同門会」による古式ゆかしい「百々手式」の奉納があり、久留米弓道連盟を中心に県内外の各地からの参加者が、境内弓庭にて学生の部、一般の部に分かれて競い合います。



## 崇敬会大祭 十月十日

高良大社崇敬会会員が日頃の神恩に感謝し、家内安全や商売繁盛などを祈念します。

## 観月祭 十月十一日

「月神高良の神」といわれることにならい、月を愛する祭として平成三年より行われています。  
箏曲や太鼓、舞などが奉納されます。境内は雅な雰囲気に包まれ、参觀者に心豊かな時間をお過ごしいただきます。



校より剣士が参加、境内特設の道場にて学年別に竹刀を交え、技と力を競い交流を深めます。

良山くんち（ぐんち）と言われています。神賑行事として獅子舞、風流などの伝統芸能や、高良山十景舞などが奉納されます。

## 例大祭 十月九日

筑後一円の小・中・高校・一般の方々から毎年千点近くの作品が出展さ

## たまたれ

この度高良大社の社報「たまたれ」が復刊されることとなり心よりお慶び申し上げます。「たまたれ」は平成四年の高良大社千六百年御神期の大祭を記念して創刊されたものであります。暫く休刊となつておりましたため復刊が待ち望まれておりました。



高良大社  
崇敬會會長  
井手和英

大社の弥栄と歴史的文化遺産の維持継承を願い、広く社会に貢献するため高良大社が行う諸事業を支援、協力することを目的として平成二十年一月に設立された民間の任意団体であります。現在、会員数は個人・法人合せて五百名程であり、主なる活動状況については別記の事業報告をご覧いただきたいと存じます。今後は会員相互の交流の活発化を図つていくとともに、地域の人々に高良大社をより身近に親しんでいただけるよう、様々な努力をしてまいりたいと考えております。会員の皆様の積極的な行事への参加を期待いたしております。

なお崇敬会では毎年十月十日（高良大社の例大祭〃おくんち〃の中日）を崇敬会大祭日として、御神徳を上げますので、当日は万障お繰り合行事を催すことといたします。会員の皆様には更めてご案内申し上げますので、当社は万障お繰り合せいただき高良のお山にご参拝くださいますようお願い申しげます。

ます。高良大社の祭事はもとより、私どもの知らない高良大社の歴史や縁起に関する情報を沢山提供していただきたいと存じます。私ども崇敬会といたしましても、会員相互の情報連絡誌として大いに活用させていただきたいと考えております。

筑後平野を一望する高良山に鎮座する高良大社は、高良玉垂命・住吉大神・八幡大神の三柱の神々を祀る旧国幣大社、筑後国一の宮であり、その御創建は履中天皇の御代（西暦四〇〇年）と伝えられ、爾來壱千六百年に亘り九州の宗廟として遍くお守り戴いており、また父なる高良山、母なる筑後川が育んだ豊かな自然と父祖伝来の歴史的文化遺産を後世に伝え、高良大社を顕彰し、且つ地域社会と共に発展することを目的として左記の日程による審議を経て、前身母体である高良大社奉斎会また平成の御造営奉賛会の組織を統合発展させ高良大社崇敬会は設立されました。

高良大社崇敬会設立経緯

監査役 岡山 渡 渡彌森宮御二福野二中津辻古黒北北金鐘稻岩青堤石井高松橋倉井  
野下辺邊永光崎船又田田ノ川福 賀岩原島子江田崎木 丸手本本本田手  
佐 登 清宮 久 由フ  
秀規徹敦光一靖 志有一啓雅信見重延透正泰 紀三義浩紀武祥 安正和  
雄夫也子弘郎幸滋彦史郎克夫子子年峰江晴大守子子明一夫治造勝彦平英

# 高良大社崇敬会 平成二十二年度年次総会開催



平成22年度 年次総会



2. 高良会館1階外壁改修



1. 久留米つづじ原木群の手入れ

去る平成二十二年三月九日萃香園ホテルに於いて平成二十二年度高良大社崇敬会総会が開催されました。当団は、会員・来賓約一〇〇名が出席し、井手和英会長を議長に、平成二十一年度事業報告・決算報告、同二十二年度事業計画・予算案を審議、全てが承認され閉会しました。

次に田中正日子先生（久留米市文化財専門委員会会長）による「官社になつた高良神」と題する記念講演が行われ、出席者一同は、熱心に聴き入つております。引続き、懇親会にて会員相互の交流を深め、全ての日程を終了致しました。



3. 社殿正面本坂脇植樹



4. 崇敬会奉納几帳

## 二十二年度事業報告

### 崇敬会

- ①年次総会開催（三月九日）
- ②境内・施設の整備実施（写真1・2・3）
- ③崇敬会大祭（十月十日）
- ④崇敬会奉納几帳（写真4）
- 講演会の開催（高良山歴史講座七ページ掲載）
- ①年次総会・崇敬会大祭・諸会議の開催
- ②講演会の開催
- ③崇敬会入会の奨励
- ④勉強会の開催
- ⑤新規会員入会勧奨
- ⑥境内・施設の整備

自然豊かな高良山に鎮座する高良大社は、高良玉垂命・住吉大神・八幡大神の三柱を祀る、筑後国一之宮であり、その歴史は、古く御創建は西暦四〇〇年頃と伝えられています。また、高良大社には、国指定重要文化財など宝物、史跡が大切に護られて居ります。その祖先より受け継がれてきた歴史と郷土遺産を守り後世に伝えるための本会の趣旨にご賛同いただき、ご入会下さいますようご案内申し上げます。

## 年会費

### 個人会員

正会員	三、〇〇〇円以上
賛助会員	一〇、〇〇〇円以上

### 法人会員

正会員	一〇、〇〇〇円以上
賛助会員	三〇、〇〇〇円以上

## 会員接遇

- 毎朝の日供祭にて会員皆様のご安泰ご隆昌を祈願致します
- 特別参拝が出来ます
- 崇敬会大祭に御案内致します
- 会主催の行事に御案内致します
- 高良大社宝物館を拝観出来ます

## 崇敬会入会のご案内

お問い合わせ先  
高良大社崇敬会事務局  
○九四二一四三一四八九三

## 高良山歴史講座

崇敬会大祭 記念講演（要約）  
平成二十一年十月十日

『海に出た筑後川の船と高良神』

講師 田中 正日子 先生  
—其の壱—



田中正日子先生

日本古代史研究者  
久留米市文化財専門委員会会長  
元第一経済大学教授

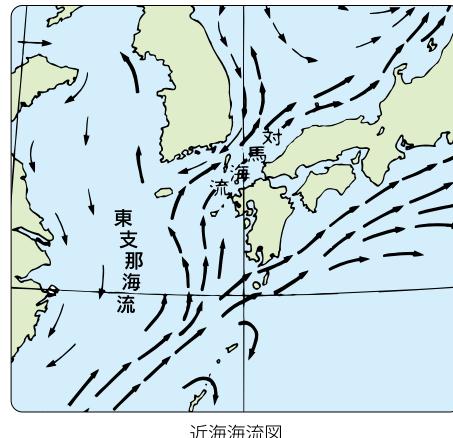
私は高校時代に、現福岡県うきは市吉井町の耳納山麓で行われていた珍敷塚（めずらしづか）古墳の発掘調査に参加していました。しかし最近はこの奥壁に描かれた六世紀後半代の壁画が随分色あせて、見るのが怖い気がしています。でも考古学や古代史関係の書物などで珍敷塚古墳の船首と船尾が高く反り返つた船の復元図などをみると、土に埋もれたまま忘れられるよりよかつたのかなと思うこともあるんです。ですが、古代の高良大社は国家にとつて有益だと評価され、官社の列に加えられていました。しかしそれは早く奈良時代の八世紀前半代以降でしょう。そうすると高良山の神をふり返る時に官社の側面だけで論じるのでは不十分です。そこで私は

方の「生葉山」を造船の木を探る船山として「高羅山」（高良山）をカジを作る「梶山」とされて船を備えられ、人や馬も川を渡れるようになつたというのです。しかも景行天皇は御井郡の高羅の行宮（かりのみや）から国内をご覧になり、霧に覆われた基山を「霧の国」とよぶのがよいと云われたので、その後ここを基肄国（きいのくに）というようになりました

岩波書店の日本古典文学大系と平凡社の東洋文庫が出版した『風土記』は、この「高羅」の古訓を「かうら」としています。私は地元で「かうら山」とよぶ古称があつて、『風土記』がそれを「高羅山」と表記したものと考えていました。しかも『万葉集』には、

そして古墳時代の大河は、ヤマト王権にとつても海外との交流に極めて重要な古代の「道」でした。船が有明海に入れば風波の影響は玄界灘側より小さく、『日本書紀』が「うみのみち」ともよませた「西之海」には大きな引潮があり、沖合に出るのを後押しするからです。そしてその九州西海岸の沖合には、流速が一級といわれる暖流が壱岐・対馬の方向へ北流し、台風と偏西風を避けられ、東シナ海流も直接対馬や朝鮮半島へ船を運ぶ航路となります。奈良時代の筑前国志賀村の白水郎（あま）荒雄は、大宰府から対馬に食料を運ぶための船（ふね）の柁師（かぢとり）に命じられた宗像の仲間に代わり、

私は子供のころ、耳納山を船底山で操船する船尾が高良山で、生葉山で操船する船尾が高良山で、生葉山



近海海流図

はおそれながら高良の神について、古墳時代の耳納山麓と筑後川の船をキーワードにして地域社会やや馬と王権との関係を考えてみたいと思います。今は鳥栖市水屋町と高田町付近を国風土記に次のような記述があります。昔は「御井川」（筑後川）の渡場の瀬が非常に広かつた。そこで景行天皇が巡狩されたときに、浮羽地方の「生葉山」を造船の木を探る船山として「高羅山」（高良山）をカジを作り、人や馬も川を渡れるようになつたというのです。しかも景行天皇は御井郡の高羅の行宮（かりのみや）から国内をご覧になり、霧に覆われた基山を「霧の国」とよぶのがよいと云われたので、その後ここを基肄国（きいのくに）というようになりました

岩波書店の日本古典文学大系と平凡社の東洋文庫が出版した『風土記』は、この「高羅」の古訓を「かうら」としています。私は地元で「かうら山」とよぶ古称があつて、『風土記』がそれを「高羅山」と表記したものと考えていました。しかも『万葉集』には、

五島列島南端の福江島（美井樂）まで船を出したといいます。博多湾や宗像大社が鎮座する神湊などから直接対馬や朝鮮半島に大型船（船）を出すのは、九州西岸を北流した海流の大部分が日本海に流れ込む。しかし荒雄は美井樂を出ると暴風で行方不明になり、筑前国守山上憶良などに惜しまれて『万葉集』にその名をとどめました。

大善寺町には在地豪族の水沼君（みぬまのきみ）一族が築いたといわれる御塚（おんつか）。権現塚古墳があります。なかでも三重の周濠と周堤をもつ全長約一二一メートルの御塚古墳は、五世紀後半代に築造された帆立貝式前方後円墳です。その水沼（水間）君は四六年頃に、雄略天皇が中国杭州の宋皇帝のもとに派遣していた使者たちを筑紫に連れ帰ってきたと『日本書紀』に記述されています。これは間もなく百濟が高句麗に惨敗すると朝鮮半島に筑紫に百濟との同盟関係を強化していた時期です。水沼君の船は、もしかすると百济まで帰ってきた遣宋使たちを乗せて、筑後川中流域の本拠地に戻っていたのかもしれません。少なくとも筑紫の水沼君はヤマト王権の命によつて、筑後川から渡海したことは間違いないです。

私は子供のころ、耳納山を船底山で操船する船尾が高良山で、生葉山で操船する船尾が高良山で、生葉山

## 高良山通信

### ◆福岡県神社庁役員

竹間宗麿宮司は、平成二十二年四月一日付福岡県神社庁副庁長に選任されました。

### ◆神社本庁表彰

飯笛実責任役員は、敬神の念厚く、多年に亘り高良大社の護持運営に尽力された御功績により、平成二十一年度神社本庁定例表彰を受彰されました。

### ◆久留米みどりの市民会議・久留米市表彰

高良山の森と環境を守る会(大渕房雄会長・会員四十名)は、山内あじさい園・もみじ谷の緑樹育成整備活動により、五月四日のみどりの日に「緑の貢献者」表彰を受彰しました。



## 年初からの主な祭事報告

### 歳旦祭・初詣

一月一日



正月社頭風景

午前零時に新年を告げる太鼓が鳴り響くと大勢の参詣者が、われ先にと神前に詰めかけました。今年の正月は厳しい冷え込みでした。境内は、幸せを祈る参拝者の熱気で満ち溢れました。

### 玉替祭

一月十一日



玉替祭 宝珠 「千珠・満珠」

御祭神の神徳の表われといわれる「宝珠」のみくじ授与では、各地の崇敬者の篤志もいただき、多くの参拝者で賑わいました。

### 紀元祭

二月十一日

神武天皇が檜原の宮において即位させたことを奉祝する祭りです。皇室の弥栄、国家の繁栄と崇敬者の安泰を祈念しました。

### 祈年祭

二月十七日

この祭典は、古代より農耕を中心してきた日本人にとって五穀豊穣を祈る重要な祭です。さらに現代では、農業はもとより、諸産業の生成発展をも併せ、多くの参拝者が、各々に実り多き年となるよう祈念しました。

### 元始祭

一月三日

宮中三殿において、皇位の元始をお祝いする祭儀で、神社でも皇室の弥栄と國家の隆昌・安泰を祈り斎行されました。

### 鏡開祭

一月二十一日

正月神前に供えた鏡餅を還暦を迎えた善男善女が割り、ぜんざいとして参拝者にふるまいました。

### 昭和祭

四月二十九日

昭和天皇の御聖徳を仰ぎ、我が国の更なる発展を祈念しました。

## 子の日の松神事

二月七日

久留米市上津町の本山の松苗が、同地区の大人、児童により古式ゆかしい装束姿にて運ばれ、境内に奉納植樹されました。



子の日の松神事

## 鎮守の杜

過日実家の神社の例大祭を奉仕した。神職にとつて祭典奉仕は至極当然のことであるが斯界を取り組むことではないか。斯界を見ても首を傾げたくなる事例が余りにも多いと言えまい。当り前の事を恒例の如くに行えることはないかと痛感した。

日本全国の神社では祭典が儘ならないお社もあるのではないか。北海道空知太神社の違憲判決の件を見ても首を傾げたくなる事例が出来ることは誠に有難いことではないかと痛感した。

翻つて我が国の状況はどうであろうか。義務を果たさずに権利を主張する者、為政者の中には主義主張を猫の目の如く変え芯が通らず、我々国民についても、口をあければ不況不況のオン・パレードでネガティブな事しか耳にしなくなっています。悪いのは政治家であり自分はちつとも悪くないと思い込んでいるのではないか。

そろそろ我々日本国民も目を覚まして、大東亜戦後六十五年を機に精神的な自立を目指して行くべき處にまで来ているのだろう。(紀)

「たまたれ」  
通巻十六号

発行者／高良大社社務所

福岡県久留米市御井町一番地  
電話〇九四二一四三一四八九三  
FAX〇九四二一四三一四九三六

平成二十二年六月一日発行